

《履修上の留意事項》この授業ではGoogle Classroomを使用して授業資料の配布や出席確認を行います。

《担当者名》教授 / 花淵 馨也

【概要】

「食」は人間が生きていくための基本的営みであるが、それは単に栄養を摂取するためだけの行為ではなく、人間同士の社会的関係や、文化的意味とも深く結びついている。ゆえに、食の不調や乱れは、社会や文化に生じている歪みや摩擦を表す症状として読み解くこともできる。この講義では、現代社会で増えている「拒食症」という病いについてとりあげ、自らの身体を虐待するかのような拒食という症状と現代社会が抱える人の生きづらさの問題との関係について医療人類学的な視点から考察する。

【学修目標】

病気や医療を社会的・文化的に構築される現象として相対的に捉える医療人類学的視点と方法を説明する。
現代社会における人の生活と病気との関係について広い視野から捉える能力を身につける。
医療の基盤となる深い人間理解と、社会の未来を切り拓くための教養を養う。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	ガイダンス	講義全体の内容と目的の説明	花淵 馨也
2	ニンゲンだもの： 何を食べてヒトになったのか？	人類の進化と食の関係について説明できる。	花淵 馨也
3	ニンゲンだもの： 食べるもの / 食べないもの	ことばと文化の仕組みについて説明できる。	花淵 馨也
4	飢餓と飽食： 農耕革命とむし歯	文明とむし歯の関係について説明できる。	花淵 馨也
5	飢餓と飽食： 苦いチョコレート？	世界システムとむし歯の関係について説明できる。	花淵 馨也
6	病気の起源と意味： 戦争とランゲルハンス島	病気の社会的要因について説明できる。	花淵 馨也
7	病気の起源と意味： 病いの本当の苦しみとは？	「疾病」(disease)と「病い」(illness)の概念について説明できる。	花淵 馨也
8	拒食症とは： 歪んだ身体イメージ	拒食症の症状について説明できる。	花淵 馨也
9	拒食症とは： グループワーク「なぜ女性の拒食症が多いのか？」	拒食症の社会的要因についてグループで議論し、意見をまとめることができる。	花淵 馨也
10	ジェンダーとダイエット： 管理する / される身体	近代的自己 = 身体と拒食症の関係について説明できる。	花淵 馨也
11	ジェンダーとダイエット： アイドルは誰のものか？	女性の身体への社会的まなざしについて説明できる。	花淵 馨也
12	現代社会とフードスケープ： 無縁と孤食の時代	現代の社会関係と食事風景の変化について説明できる。	花淵 馨也
13	現代社会とフードスケープ： 共に食べる喜び	つながりと幸せを生む食事の働きについて説明できる。	花淵 馨也
14	ディベート： プロアナというライフスタイル	多様な価値観を認め、異なる考えをもつ他者と意見を交わす能力を高める。	花淵 馨也
15	まとめ	全体のまとめ	花淵 馨也

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

日常の学習意欲（20％）、発表（30％）、レポート（50％）

【教科書】

必要に応じてその都度、資料を配付する。

【参考書】

磯野 真穂『なぜふつうに食べられないのか』春秋社

波平 恵美子 著『からだの文化人類学』（大修館書店）

池田 光穂 & 奥野 克己 共編『医療人類学のレッスン：病いをめぐる文化を探る』（学陽書房）

そのほか講義において適宜紹介する。

【備考】

この授業は医療技術学部との合同授業である。

【学修の準備】

予習：授業で出された課題について調べてくる（80分）。

復習：講義内容について整理をし、理解したことを確認しておく（80分）。

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

DP1.人々のライフステージに応じた疾患の予防、診断および治療を実践するために基本的な医学、歯科医学、福祉の知識および歯科保健と歯科医療の技術を習得するために必要な知識を医療人類学の観点から修得する（専門的実践能力）。

DP2.「患者中心の医療」を提供するために必要な高い倫理観、他者を思いやる豊かな人間性および優れたコミュニケーション能力を医療人類学の観点から身につける（プロフェッショナリズムとコミュニケーション能力）。

DP3.疾患の予防、診断および治療の新たなニーズに対応できるよう生涯にわたって自己研鑽し、継続して自己の専門領域を発展させる能力を医療人類学の観点から身につける（自己研鑽力）。

DP4.多職種（保健・医療・福祉）と連携・協力しながら歯科医師の専門性を発揮し、患者中心の安全な医療を実践するために必要な知識を医療人類学の観点から修得する（多職種が連携するチーム医療）。

DP5.歯科医療の専門家として、地域的および国際的な視野で活躍できる能力を身につけるために必要な知識を医療人類学の観点から修得する（社会的貢献）。